

| | | |
|----------|------------|-------------------------|
| 分野 | 戦略 | 低炭素、循環及び共生を基調とした持続可能な社会 |
| 品格あるくまもと | 重点的に取り組む施策 | 健全な水循環と水環境の保全 |

1 施策の概要 (PLAN)

| | |
|--|---|
| (1)背景 | (4)取組みの概要 |
| <p>本県は、我が国でも有数の水の宝庫である。特に、質量共に優れた地下水は森林や農地等にはぐくまれた財産であり、水道水源の約80%を賄うなど、県民の暮らしを支えるとともに、地域づくりや産業活動の源泉ともなる戦略資源となっている。さらに特筆すべきこととして、熊本地域においては、人口百万人の生活用水のほぼ100%を地下水で賄っている。</p> | <p>【地下水の保全と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「熊本地域地下水総合保全管理計画」を推進する。 地下水採取等の規制を強化するとともに、広報啓発により県民・事業者等の地下水保全に向けた協働体制への参画を進める。 <p>【水質の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共用水域（河川・湖沼・海域）の水質保全対策を継続する。 地下水の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素対策を推進する。 県民全ての方々に対する水環境教育及び県民運動を実施する。 <p>【安全安心な飲用水の供給】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水道未普及地域の解消対策に取り組む。 |
| (2)めざす姿 | |
| <p>県民が持続可能な社会の中で、水を守り、水を活かし、安心して暮らせる社会の形成をめざすとともに、全国一とも言える地下水資源の多面的な活用をめざす。</p> | |
| (3)解決すべき課題 | |
| <p>地下水位の低下傾向や、硝酸性窒素による水質汚染など、これまで以上に水源かん養、節水、水質保全への取組みが急務となっている。</p> <p>有明海・八代海の水環境基準未達成など、水質保全が必要である。</p> <p>水道未普及地域が多く、安全安心な飲料水供給が必要である。</p> | |

2 施策の主な構成事業 (DO)

| 取組みの概要 | 担当課 | 平成22年度事業/決算(千円) | 平成23年度事業/当初予算(千円) | | |
|---------------|---------|---------------------|-------------------|------------------|-----------|
| 地下水の保全と活用 | 環境立県推進課 | 熊本地域地下水保全協働推進事業 | 997 | 熊本地域地下水保全協働推進事業 | 1,634 |
| | | 地下水位監視事業 | 5,646 | 地下水位監視事業 | 6,126 |
| | | 節水推進事業 | 162 | 節水推進事業 | 947 |
| | | 熊本の水資源保全活用事業 | 11,290 | 熊本の水資源保全活用事業 | 3,500 |
| | | 熊本の水「夢戦略」事業 | 844 | 地下水の未来のための保全活用事業 | 5,261 |
| 環境保全課 | - | - | - | 地下水の未来のための保全活用事業 | 10,122 |
| | | 地下水質監視事業 | 6,372 | 地下水質監視事業 | 7,655 |
| 水質の保全 | 環境立県推進課 | 水環境教育・県民運動推進事業 | 1,426 | 水環境教育・県民運動推進事業 | 2,049 |
| | | 水環境教育・県民運動推進事業 | - | 水環境教育・県民運動推進事業 | 650 |
| | 環境保全課 | 水質環境監視事業 | 16,131 | 水質環境監視事業 | 26,436 |
| | | 地下水質監視事業 | 6,372 | 地下水質監視事業 | 7,655 |
| | | 水質環境重点調査事業 | 6,848 | 有明海・八代海環境調査事業 | 14,798 |
| | 下水環境課 | 生活排水処理構想策定事業 | 5,015 | 生活排水処理構想策定事業 | - |
| | | 浄化槽整備事業 | 253,169 | 浄化槽整備事業 | 274,813 |
| | | 農業集落排水施設整備推進費 | 113,197 | 農業集落排水施設整備推進費 | 76,200 |
| | | 低コスト型農業集落排水施設更新支援事業 | 19,925 | - | - |
| | | 団体営農業集落排水事業費 | 640,540 | 団体営農業集落排水事業費 | 606,000 |
| | | 漁業集落排水施設整備後年交付金 | 3,250 | 漁業集落排水施設整備後年交付金 | 29,640 |
| | | 漁業集落排水施設整備市町村補助 | 219,742 | 漁業集落排水施設整備市町村補助 | 155,381 |
| | | 熊本北部流域下水道建設事業 | 899,415 | 熊本北部流域下水道建設事業 | 2,041,900 |
| | 環境保全課 | 球磨川上流流域下水道建設事業 | 366,900 | 球磨川上流流域下水道建設事業 | 28,000 |
| 八代北部流域下水道建設事業 | | 148,500 | 八代北部流域下水道建設事業 | 5,000 | |
| 安全安心な飲用水の供給 | 環境保全課 | 上水道事業 | 6,074 | 上水道事業 | 8,957 |
| | | 水道未普及地域解消対策推進事業 | 4,889 | - | - |

3 施策の評価 (CHECK)

| (1)指標の推移 | | | | | | |
|----------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|----------------------------|------------------------------------|---|
| 指標(単位) | 策定時 | H21 | H22 | H23 | 目標値 | 目標値の説明 |
| 1 1人1日当たりの上水道使用量(人・日) | 341 (H18) 増減 | 335 (H19) ... | 331 (H20) -6 | 集計中 (H21) | 325 (16人・日減らす) | 九州各県の上水道使用量平均値のH23推定値(年々減少しており、継続して減少することを想定) |
| 2 地下水採取量の削減(万m ³) | 26,739 (H18) 達成度 | 26,739 (H18) ... | 26,223 (H19) ... | 25,391 (H20) +100.0% | 26,071 (668万m ³ 減らす) | 熊本地域地下水総合保全管理計画に掲げる採取量を参考とした数値目標 |
| 3 公共用水域における環境基準(BOD・COD)の達成状況(%) | 河川93.8 (H19) 達成度 | 89.4 (H20) 89.4% | 91.5 (H21) 91.5% | 集計中 (H22) | 100 | 河川(47水域)、湖沼(3水域)、海域(19水域) |
| | 湖沼100 (H19) 達成度 | 100 (H20) 100.0% | 100 (H21) 100.0% | 集計中 | 100 | それぞれ、設定されたすべての水域における環境基準値の達成 |
| | 海域73.7 (H19) 達成度 | 89.5 (H20) 89.5% | 84.2 (H21) 84.2% | 集計中 | 100 | |
| 4 地域水道ビジョン策定率(%) 平成22年度設定した指標 | 14.9 (H19) 達成度 | 14.9 (H19) 18.6% | 45.0 (H20) 56.3% | 集計中 (H21) | 80 | 各市町村等の策定予定を踏まえた目標値 |

(2)指標の分析

1. 県民及び事業者の節水や水の循環利用への取り組みが、徐々に徹底しつつある。(平成23年12月頃公表予定)
2. 県民1人当たりの水道使用量減少による水道用水減少の他、農業用水や工業用水等も減少したため、目標を達成した。なお、農業用水及び工業用水の減少原因は、主に代替水源の利用や水の有効活用によるものと思われる。
3. 環境基準達成率は、河川は上昇傾向にあるものの、海域は横ばいで推移している。(平成23年10月頃公表予定)
4. 平成19年度から未策定市町村を重点的に指導した成果が策定率に反映されてきている。(平成23年12月頃公表予定)

(3)平成22年度の取組みの主な成果

- 【地下水の保全と活用】
- 熊本地域地下水保全対策会議(県、11市町村)において、地下水保全管理の中核となる組織等の設立の基本合意に達した。
 - 県内33カ所の観測井で地下水位を毎月監視。企業、水道事業者等から地下水採取量報告を徴収し、適正化が進んだ。
 - 有識者による「水の戦略会議」を開催し、熊本の地下水の未来についての最終提言が得られた。
 - 引き続き、中学生対象の水の作文コンクールを実施。応募数9年連続日本一を達成した(4,511件)。
- 【水質の保全】
- 水質測定計画に基づき、公共用水域(地点数を追加)及び地下水(地点数を追加)の調査を実施するとともに、有明海・八代海の海域環境についての重点調査を継続し、調査結果を県環境審議会水保全部会に報告。水環境の実態把握が進んだ。
 - 人口減少や急速な高齢化など地域社会の構造変化に対応するため、「熊本県生活排水処理施設整備構想」の見直しを進め、生活排水対策の新たなマスタープランとなる「くまもと生活排水処理構想2011」(「新構想」)の素案がまとまった。
 - 下水道や集落排水施設、浄化槽の生活排水処理施設の整備が進んだ。

【安全安心な飲用水の供給】

- 簡易水道事業統合計画の進捗状況を管理するとともに、水道未普及地域において飲水井戸等の水質検査を行った。また、水道の普及率が向上しない2市町をモデル地域として小規模水道の実態調査を実施。水道普及のための方策の検討が進んだ。

(4)平成23年度の取組方針、取組状況

- 【地下水の保全と活用】
- 熊本地域の地下水保全推進組織を発足させる。また、県地下水保全条例の改正や、水環境教育と連動した地下水保全キャンペーンを展開するほか、「水の戦略会議」の最終提言を踏まえ、「水の国くまもと」の魅力を県内外に発信する。
- 【水質の保全】
- 水質測定計画に基づき公共用水域(河川・湖沼・海域)及び地下水質の調査を実施し環境基準達成状況の把握を行う。
 - 有明海・八代海の海域環境重点調査に加え、関係5県共同の長期広域調査と環境基準未達成の要因検証調査に取り組む。
 - 熊本地域及び荒尾地域硝酸性窒素削減計画等に基づき、引き続き地下水の硝酸性窒素汚染対策を推進する。また、熊本市と共同で対策と効果の検証と将来予測のためのシミュレーションモデルを開発する。
 - 新構想を策定し、生活排水処理対策を推進する。
- 【安全安心な飲用水の供給】
- 関係市町村の簡易水道事業の再編・統合の進捗管理、市町村の将来構想である地域水道ビジョンの策定支援等に取り組む。

(5)施策の進捗に関する総合評価

- ・県民、事業者の節水や水の有効利用についての取り組みが進んでいる。
- ・新構想をもとに、生活排水処理施設の計画的な整備が進んでいる。
- ・市町村の水道整備を詳細に分析するために最新の水道施設の系統図や水道地図の策定が進んできている。

(6)施策を推進していく場合の課題

- ・熊本地域における地下水保全のための今後の施策について、県民・事業者・関係団体等の理解を一層深める必要がある。
- ・地下水採取者に対して、地下水の適正な採取を指導するとともに、地下水かん養量の増加を図る必要がある。
- ・海域でのメカニズム解明や地下水の硝酸性窒素対策の定量的な効果検証等、現況調査とモニタリングの継続が必要である。
- ・社会情勢の変化や地域の実態に配慮した生活排水処理施設整備が重要である。

4 今後の方向性 (ACTION)

- ・地下水採取の適正化に向け、県地下水保全条例の改正内容に即した地下水採取に係る規制の強化を図る。
- ・講演会、イベントの実施など、年間を通して「水の国くまもと」のPRを進める。
- ・水質モニタリングの継続、硝酸性窒素汚染に関する現況把握や削減計画に基づく対策の更なる推進を図る。
- ・新構想に基づき、生活排水処理施設の機能発揮に向け、「県民」「市町村」「県」が一体となって生活排水対策を進める。